

礼拝

令和5年5月8日
1号



瑠璃殿と宗教礼拝

謙虚にして真理探究 (帰依仏)
誠実にして精進努力 (帰依法)
親切にして相互協同 (帰依僧)

新年度が始まって早くも一ヶ月が過ぎました。今日は、新入生にとって、初めての宗教礼拝の時間となります。

宗教礼拝を行うこの礼拝堂は瑠璃殿(るりでん)と名付けられています。慈悲深く徳の香り高い瑠璃観音にあやかり、宗教礼拝を受ける皆さんが、思いやりの心を持った人間へと成長して欲しいという願いが込められています。また、正面の左右には「一对の聯(れん)」がかけられています。右側には「佛心者大慈悲是也」、左側には「春風接人秋霜持己」の詩句が書かれています。いずれも思いやりや慈しみの心をもって人に接することの大切さを意味したもので、瑠璃殿と二つの聯には、「やさしい人になって欲しい」という本校の願いが込め

られているのです。すなわち、この瑠璃殿こそが、学校の中心となる大切な場所なのです。

宗教礼拝とは

○宗教とは、人がしあわせに生きていくために説かれている教えのことです。
○礼拝とは、尊敬や敬いの姿であり、素直に教えを受け取り、素直に自分自身を見つめる行いです。

本校の宗教礼拝は、阿弥陀さまという仏さまの御前で礼拝をすることによって、大宇宙の法則の中で生かされている自分に気づき(智慧)、仏さまの御光、すなわち、命あるすべてのものがしあわせに生きていけるように照らしてくださっている光(慈悲)を頂き、よりよい人格を形成していくことを目標とする時間です。この時間での学習や行いを学校生活の基本としていただきたいと思います。

行道とは

各教室前の廊下に整列し、合掌の姿で瑠璃殿に向かうことです。ただ歩くのではなく、瑠璃殿に到着するまでの間に、心を静かにしていくのです。自分の周囲のことに心を奪われず、自分の進む先をしっかり見つめ、口を閉じて合掌することで、整然と整列した状態の行道が行えるのです。

写経とは

お経を写すことです。「お経」とは仏さまのことばであり、正しい教えを文字で表したものです。心をこめて、一文字ずつ丁寧に書き写すことは、仏さまの教えを心で受け止めることです。筆先に心を集中させると、自然

と他のことを考えなくなります。つまり、素直に教えを受け止められ、静かで落ち着いた時間を迎えることができるのです。

法話とは

法話とは、仏さまの説かれている教え(お経)を、皆さんにわかる言葉でお伝えすることです。法話は「説教」とも言いますが、そういうわけると、悪いことをしたときに叱られるような意味に感じる人が多いと思います。「悪いことを正していく」と考えれば、正しい教えを説くという本来の意味にたどり着きます。また、礼拝の法話だけではなく、朝礼での校長先生のお話、授業や学級での先生方のお話にも、それぞれめあてがありますから、耳と心を一体にしてよく聴き、めあてを理解して、自分の中に深く浸透させていきましょう。

感想文とは

その日の法話を聴いて、感じたことや考えたことを書き留める時間です。思いを文字で表現することで、頭の中で考えているぼんやりとしたものが、はっきりとした形として見えてきます。日々の生活に照らし合わせて考えるのも良いことだと思います。自分と向き合い、内面から成長していく時間になればと願っています。

宗教礼拝の時間を通して法話の拝聴と自己の振り返りを行い(謙虚にして真理探究)、合掌の姿で心の波を消し、誠実な心で一所懸命に礼拝に臨み(誠実にして精進努力)、思いやりのあるやさしい人へと成長していくこと(親切にして相互協同)を願います。